

平成 2 9 年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価

大阪市立中野小学校

平成 3 0 年 3 月

※達成状況の数値について

- | | |
|------------------------|---------|
| A：目標を上回って達成した | ・・・ 2点 |
| B：目標どおりに達成した | ・・・ 1点 |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | ・・・ -1点 |
| D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | ・・・ -2点 |

とし、平均値を算出した。

大阪市内立中野小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 遠慮がちであったり、周りを気にしたりする子があるので、進んで自分の意見を表現できる子どもを育てる。
- 基礎・基本の定着をさらに確実にするために、計算・漢字練習など基本の力を確実につけられるようにする。
- 持久力や瞬発力をつけ、意欲的・日常的に体を動かす子どもを育てる。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成32年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と肯定的に答える児童の割合を90%以上の高水準に保つ。（施策2 安全で安心できる学校、教育環境の構築）
- 平成32年度3学期に実施する児童学校生活アンケートの「学校は楽しい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上の高水準に保つ。
（施策2 安全で安心できる学校、教育環境の構築）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率を、全市平均よりも7ポイント以上高い水準を保つ。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成32年度3学期に実施する児童学校生活アンケートで、「学習したことがよくわかる」と肯定的に回答する児童の割合を95%以上の高水準に保つ。
（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**全市共通目標（小・中学校）**

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。◎
- 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を93%以上にする。**92%**
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
（前年度より該当児童はいない。）
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。◎

学校園の年度目標

- 児童学校生活アンケートの「学校は楽しい。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。**92%**
- 児童学校生活アンケートの「遠足や運動会・児童会の行事は楽しい。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。**99%**
- 児童学校生活アンケートの「学校のきまりを守っている。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。**94%**

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。

（前年度、大阪市 75、本校 80）

大阪市 75、本校 78

○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。

現4年生 2→9、現5年生 9→9、現6年生 10→7

○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。

現4年生 84→70、現5年生 67→63、現6年生 64→66

○平成29年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」にたいして、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。**77.9%→71%**

○平成29年度の全国体力・運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録が、前年度より上回る。**男子 21.44m→24.58m 女子 14.12m→11.44m**

学校の年度目標

○児童学校生活アンケートの「学習したことがよくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。**94%**

○児童学校生活アンケートの「学習は、楽しくて、いろいろなことにチャレンジしてみようと思う。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。**86%**

○児童学校生活アンケートの「自分の考えを説明したり、発表したりすることをがんばった。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。**77%**

○児童学校生活アンケートの「運動場に出て元気に遊んでいる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。**83%**

○ソフトボール投げを一学期と三学期に実施し、一学期の平均を三学期の平均が上回る。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は初めて大阪市全体としての共通目標値が出され、それを受ける形で学校としての目標値を設定して取り組んだ。初めての目標設定であるため、正答率が高くなるように設定した。実際、学年が1年進んでの正答率アップは容易ではないということがわかってきた。今回は学力経年調査結果で正答率の低い児童数を減らし、高い児童数を増やすという目標を設定した。しかし、かなり高い目標設定であった。本校は比較的正答率が高い傾向にあるため、現在の高水準を維持するような目標設定がよいと考える。また、同一の母集団で経年変化を見る数値としては、大阪市との平均の差を指標とする方がよいと考える。

一方、正答率が高水準にあるものの、学びの楽しさや意見を述べ互いに高まり合うといったところが弱い傾向がみられる。自ら見つけ出したり意見交流しながら導いたりする学びより、覚える方が簡単であるような児童の意識がみられる。特に高学年になるほどその傾向がみられる。このため、習熟の程度に合わせた授業を充実させ、興味関心を高める授業が求められる。また、覚えて点を取るという学びではなく、自らが問題を見つけ、自分の力で解決していくおもしろさを感じるような授業が求められる。

体力・運動能力面では、5年生だけの調査であるが全国平均よりかなり低い数値となっている。毎年の傾向であるため、体育の授業で体力向上を意識した授業を行ったり、年間計画で体力アップのための取り組みを重点的に行ったり、日常的に運動に取り組める環境を整えたりしているが、効果は十分に出ているとは言えない。運動の日常化が今後のキーワードである。

学校の行事や取り組みについては、今後も継続して行うことが重要である。

大阪市内立中野小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。◎</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を93%以上にする。92%</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(前年度より該当児童はいない。)</p> <p>○平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。◎</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○児童学校生活アンケートの「学校は楽しい。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。92%</p> <p>○児童学校生活アンケートの「遠足や運動会・児童会の行事は楽しい。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。99%</p> <p>○児童学校生活アンケートの「学校のきまりを守っている。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。94%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○清掃活動を通じて、学校の教育環境を整えることで、健やかな心と自尊感情を育む。 (年度目標)</p> <p>指標</p> <p>●児童学校生活アンケートの「係活動や当番活動で、みんなのために役立っている。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。87%</p> <p>●保護者学校生活アンケートの「子どもは友だちを大切にできる気持ちやみんなで使うものを大切にする気持ちが育っている。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。98%</p>	<p>1.1 ↓ 1.3 B</p>
<p>取組内容②【施策3、道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学級活動を中心に自ら進んで物事に取り組む気持ちを育て、自己の役割に対して責任をもって果たしたり、集団のために貢献したりしようとする教育を進めることで自尊感情を育てる。 (年度目標)</p> <p>指標</p> <p>●児童学校生活アンケートの「係活動や当番活動で、みんなのために役立っている。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。87%</p>	<p>0.8 ↓ 1.2 B</p>
<p>取組内容③【施策7、地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○「家庭学習チェックシート（なかのマスター）」に、がんばる項目の強化月間の欄を設けるなどの工夫を加え、基本的な生活習慣と家庭学習の関連の重要性をさらに家庭に伝える。また、結果の分析や発信法にも工夫を凝らしていく。 (年度目標)</p>	<p>1.4 ↓</p>

<p>指標</p> <p>●「家庭学習の手引き（すすめ）」、「家庭学習チェックシート（なかのマスター）」の内容をさらに工夫して作成する。</p> <p>●保護者学校生活アンケートの「学校は、学校だより、ホームページ等で教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。 97%</p>	<p>1.6 A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①○清掃活動をよく頑張る児童が見られた。</p> <p>○たてわり班清掃では、普段取り組めない児童も一生懸命頑張っていた。</p> <p>○美しい環境を保つことで、充実した気持ちになっており、学習にも意欲が出てきている児童もいた。</p> <p>②○学級での係活動や当番活動を自主的に行い、自分の役割を果たし、自分の仕事に責任を持つ態度が育っている。</p> <p>○係・当番以外でも、周りを見て何をすべきが考えて行動できる児童が増えてきている。</p> <p>○学級活動の時間をしっかり設けることによって、係活動が活発になった。朝の会で係の連絡をすることで、役割により責任を持つことができた学級もある。</p> <p>○学級活動に進んで取り組む姿勢が、集団のために貢献しようとする気持ちを育て、委員会活動やたてわり班活動でのリーダーとしての責任感に繋がっている。</p> <p>●全体では自己の役割を責任を持って果たし、進んで集団に貢献する態度が育ってきているが、まだできていない児童もいる。また、自尊感情が育つまでには至っていないところもある。</p> <p>●学年が上がるにつれ、委員会の役割など、休み時間にもしなければならないことが増え、思うように活動できなかったと感じる児童がいたり、当番を忘れたりする児童がいて、年間を通して指導が必要なこともあった。</p> <p>●アンケートの目標達成まであと少し → 週に一度係活動、当番活動を振り返ることを学校全体で取り組み、自ら進んで物事に取り組む気持ちを育てていく。</p> <p>③○「なかのマスター」を使い、月に一度、親子で生活習慣や家庭学習の様子を振り返ることが定着している。</p> <p>○各担任が工夫し、「なかのマスター」を通して、個に応じた指導ができている。</p> <p>○「なかのマスター」の中に、がんばる項目（宿題、早寝・早起き、お手伝い等）の強化月間の欄を設け、めあての意識付けができた。</p> <p>○学校だよりやホームページで教育方針を伝えたり、「なかのマスター」の集計結果や分析を発信することができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①○学校として、清掃に対しての取り組み方、始まりの挨拶、終わりの挨拶を徹底することでさらに充実した清掃活動になり、物を大切に扱うことや自尊感情を高めることができる。</p> <p>○教師が頑張っていると思っているより、子どもたちの自己評価が低いので、頑張りを褒める手立てや子供一人ひとりの意欲を高める工夫がさらに必要。</p> <p>○来年度以降、子どもたちが清掃活動に意欲的に取り組めるために、清掃チェックカードなどの工夫を検討する必要がある。</p> <p>②○学級活動の時間を大切にし、それぞれの学級の課題に応じた取り組みを工夫し、児童一人ひとりに沿った声かけをすることで、自己の役割を責任を持って果たし、進んで集団に貢献する態度を育てることができ、そのことが自尊感情を高めることにも繋がっていく。</p> <p>○学級活動で培った力を、委員会活動、たてわり班活動など、学校全体での役割に対する責任感に繋げさらに、高学年においての自尊感情を高める教育を進めていく。</p> <p>③○今後も「なかのマスター」を使い、「保護者と児童」「担任と児童」「担任と保護者」とのつながりを大切にしていきたい。特に、基本的な生活習慣と家庭学習の関連の重要性についての意識が希薄な家庭に対するケアを根気強く行う。</p>	

大阪市立中野小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 (前年度、大阪市 75、本校 80) 大阪市 75、本校 78</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率54%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 現4年生 2→9、現5年生 9→9、現6年生 10→7</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。 現4年生 84→70、現5年生 67→63、現6年生 64→66</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」にたいして、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。%→71%</p> <p>○平成29年度の全国体力・運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録が、前年度より上回る。男子 21.44m→24.58m 女子 14.12m→11.44m</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○児童学校生活アンケートの「学習したことがよくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。94%</p> <p>○児童学校生活アンケートの「学習は、楽しくて、いろいろなことにチャレンジしてみようと思う。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。86%</p> <p>○児童学校生活アンケートの「自分の考えを説明したり、発表したりすることをがんばった。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。77%</p> <p>○児童学校生活アンケートの「運動場に出て元気に遊んでいる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。83%</p> <p>○ソフトボール投げを一学期と三学期に実施し、一学期の平均を三学期の平均が上回る。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○算数科において問題解決型の学習を全学年で確実に行う (年度目標)</p> <p>指標</p> <p>●児童学校生活アンケートの「学習したことがよくわかる。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。94%</p> <p>●児童学校生活アンケートの「学習は楽しくて、いろいろなことにチャレンジしてみようと思う。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。86%</p>	<p>1.3</p> <p>↓</p> <p>1.6</p> <p>A</p>
<p>取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>○言語での表現能力を向上させる。</p> <p>・国語科では多くの語彙を習得し、わかりやすく相手に伝えることができる指導をする。また、国語科以外のすべての学習においても考えを説明し合える場を設け、表現力</p>	<p>1.1</p> <p>↓</p>

を向上できるようにする。(年度目標)	1.3
指標 ●児童学校生活アンケートの「自分の考えを説明したり、発表したりすることをがんばった。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 77%	B
取組内容③【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 ○体力向上に向けて体育科の授業や外遊びの工夫・改善 ・ボールを使った運動に興味を持ち、児童が進んで取り組めるよう、道具や環境の整備をする。(年度目標)	1.1 ↓
指標 ●ソフトボール投げを一学期と三学期に実施し、一学期の平均を三学期の平均が上回る。	1.4 B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①○算数科では、5段階の学習過程に沿った授業を全学級で取り組んでいるので、学年や指導者が変わっても同じ流れで学習に取り組むことができている。めあてを意識して学習に取り組み、自分の考えをノートに書いて考えることが定着してきた。理解に時間がかかる児童に対しても習熟度別学習により理解できるまで補習することを積み重ねてきたので、力をつけてきている。
- ②○ペア学習や、全体での意見の交流の場が多く設けられ、自分の考えを表現するための取組が進められている。自分の考えを説明したり、発表したりすることをがんばっていると考えている児童の割合は77%であった。
国語科の学習が表現力を伸ばす基礎となると考えられるため、毎日の国語科の授業を充実させることが必要である。語彙を増やすため3年生以上では辞書の活用をし、低学年では絵本を読んだり体験的に語彙を身につけるようにしたりするなど学年に応じた語彙の習得方法を工夫してきた。さらに自分の考えを自信をもって表現できるよう毎日の授業の組み立て方や発問を工夫するなどの取組も必要である。
- ③○ボールだなの置き場を変更したこと、バスケットボールやバレーボールを増やしたことによって、ボールに対する親しみが高まった。
○授業でセストボール、タグラグビー、ハンドボールなど児童が楽しんで取り組める内容を工夫することができた。
○ジャンピング、ランニングなど全学年で取り組むことで体力向上に向けて取り組めた。
●冬場にボール運動をする児童が減ってしまう。
●ボールを怖がる児童や運動が苦手な児童に向けて、さらに工夫していく必要がある。

ソフトボール投げ クラス別平均 男子 (m)			
クラス	1学期 (5月)	3学期 (2月)	結果
1-1	7.8	11.6	▲ 3.8
1-2	6.6	9.6	▲ 3.0
1-3	6.3	7.1	▲ 0.8
2-1	9.6	11.7	▲ 2.1
2-2	7.4	11.2	▲ 3.8
3-1	13.6	17.4	▲ 3.8
3-2	12.6	14.2	▲ 1.6
4-1	20.3	20.9	▲ 0.6
4-2	16.4	21.4	▲ 5.0
5-1	25.9	27.1	▲ 1.2
5-2	23.5	23.8	▲ 0.3
6-1	23.2	24.2	▲ 1.0
6-2	24.5	26.1	▲ 1.6

ソフトボール投げ クラス別平均 女子 (m)			
クラス	1学期 (5月)	3学期 (2月)	結果
1-1	4.3	5.6	▲ 1.3
1-2	4.6	6.3	▲ 1.7
1-3	4.3	5.1	▲ 0.8
2-1	6.6	7.6	▲ 1.0
2-2	6.9	7.8	▲ 0.9
3-1	9.1	10.9	▲ 1.8
3-2	7.9	9.2	▲ 1.3
4-1	10	9.8	▼ (0.2)
4-2	9	11.1	▲ 2.1
5-1	11.2	12.2	▲ 1.0
5-2	11.7	12.7	▲ 1.0
6-1	14.4	14.5	▲ 0.1
6-2	16.4	15.7	▼ (0.7)

次年度への改善点

- ①○「学習したことがよくわかる」と考えている割合が94%と達成感を感じている児童が多いが指標には、僅かに達していない。定着してきた中野の算数の指導法を継続して学力向上につなげていく。
- ②○国語科では、上記の取組に加え、さらに、自分の考えを自信をもって表現できるよう毎日の授業の組み立て方や発問を工夫するなどの取組も必要である。

- ③○授業を通して児童が運動に興味を持ち、休み時間等にも楽しんで取り組めるようにしていく。
- 学習において、投げる、受けるといった基本的なボール運動を行う機会を増やしていく必要がある。
 - 建て替えにともなう運動場の使い方について検討していく必要がある。